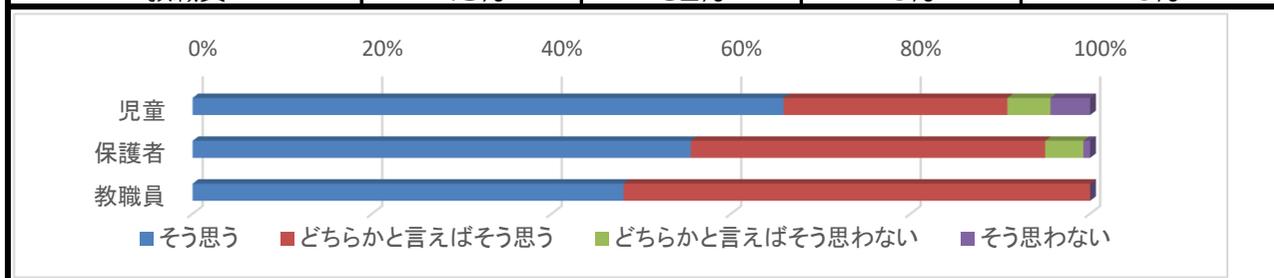


令和6年 鷹岡小学校 前期 学校評価まとめ

1 学校生活全般について

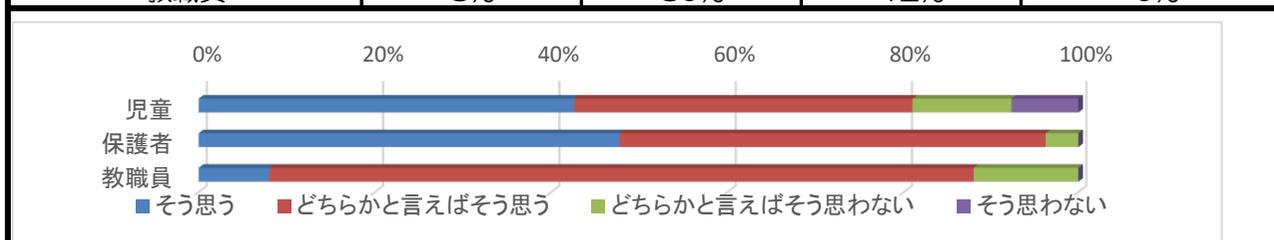
①【保護者】【教職員】子供は、学校に楽しく通っている。
【児童】学校は楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	66%	25%	5%	4%
保護者	56%	40%	4%	1%
教職員	48%	52%	0%	0%



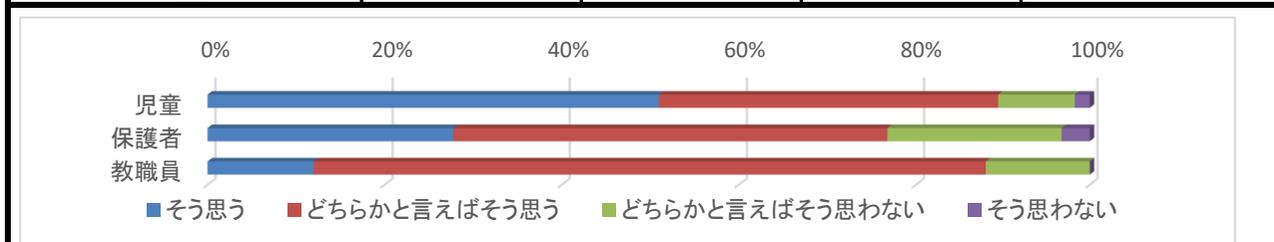
②【保護者】【教職員】子供は、自分にはよいところがあると思っている。
【児童】自分には、よいところがあると思う。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	43%	38%	11%	8%
保護者	48%	49%	4%	0%
教職員	8%	80%	12%	0%



③【保護者】【職員】子供は、普段から進んで学習や運動をしようとしている。
【児童】進んで、勉強や運動をしている。

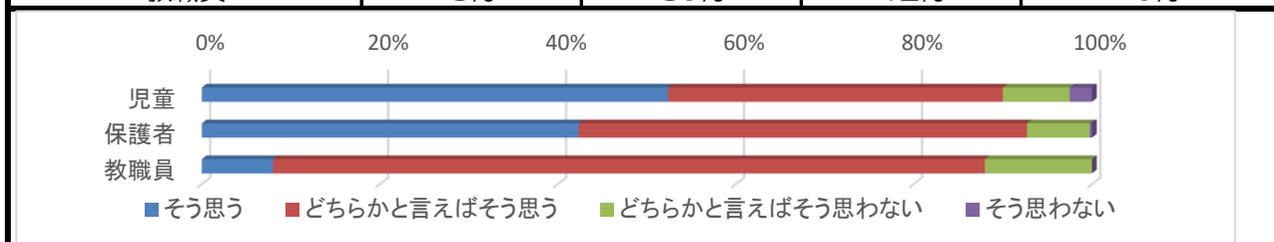
	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	51%	38%	9%	2%
保護者	28%	49%	20%	3%
教職員	12%	76%	12%	0%



④【保護者】【職員】子供は、友達の思いを受け止めたり、優しく声を掛けたりすることができる。

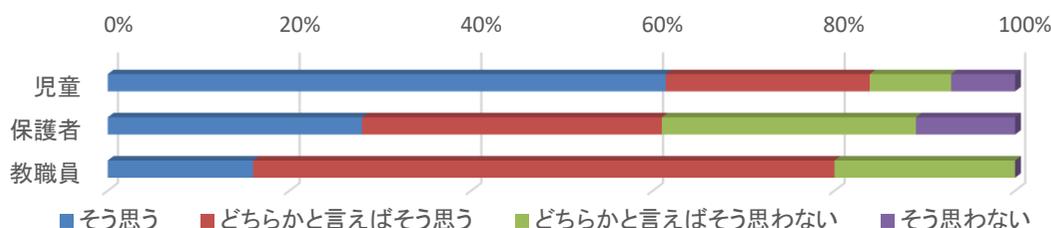
【児童】友達の気持ちを考えて、優しく言葉を掛けたりすることができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	52%	38%	7%	2%
保護者	42%	50%	7%	0%
教職員	8%	80%	12%	0%



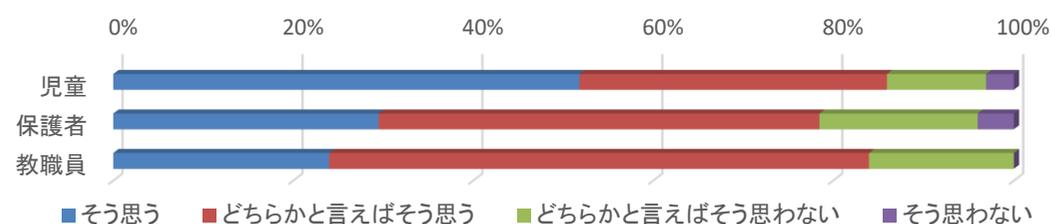
⑤【保護者】【教職員】子供は、読書を楽しんでいる。
【児童】読書は楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	61%	22%	9%	7%
保護者	28%	33%	28%	11%
教職員	16%	64%	20%	0%



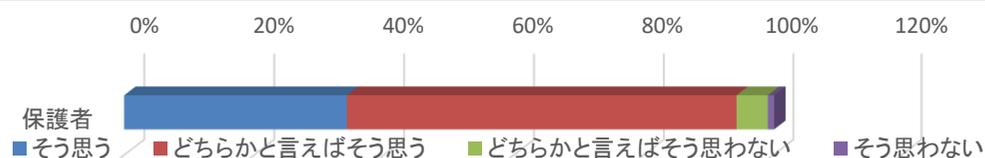
⑥【保護者】【教職員】子供は、家庭学習を工夫して頑張っている。
【児童】家での学習を工夫して頑張っている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	52%	34%	11%	3%
保護者	30%	49%	18%	4%
教職員	24%	60%	16%	0%



⑦【保護者】鷹岡小は、安心して子供を任せられる学校である。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
保護者	34%	60%	5%	1%



〈考 察〉

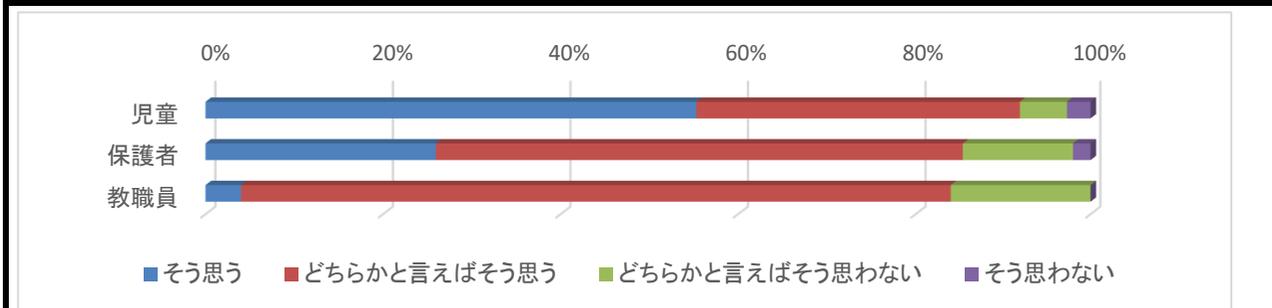
設問①「学校は楽しい（子供は、学校は楽しいと思っている）」に肯定的な回答（そう思う・どちらかというと思う）をした児童は、91%となり、昨年度を上回りました。毎回感じることで、子供たちが「学校が楽しい」と思ってくれることが教職員にとっては最もうれしいことです。今後も、子供たちにとって楽しい学校を目指して教職員全員で努力してまいります。設問③「進んで、勉強や運動をしている」についても、89%という高い値となり、昨年度の値を5%上回りました。「進んで」ということは、教師や保護者にやらされるものではなく、自ら勉強や運動に取り組むことができる子供が増えているということでもたのしく感じます。その自主性ややる気を育てるのも学校の大切な役割と考えているので、引き続き、子供たちがいろいろな活動に「進んで」取り組めるよう学校全体で支えていきます。

近年、本校において、なかなか肯定的な回答の数値が上がらず課題として捉えていた設問②「自分には、よいところがある」の回答については、今回、81%と初めて児童の肯定的な回答が80%の大台を超えました。鷹岡小学校の児童が自分のよいところに気づき、前向きに生活できていることが分かります。本校では、昨年度より重点目標「自分を、仲間を大切にできる子」とし、一人一人の児童を大切に、温かい声掛け互いのよいところを認め合う学校・学級づくりを進めてきました。これらの実践の成果が上がってきていることは大変うれしいことだと感じています。ただ、依然として高学年に上がるにつれ数値が下がっているという課題は見られるため、今後も全校のどの児童も自己肯定感を高められるよう引き続き、支援してまいります。

2 学習面について

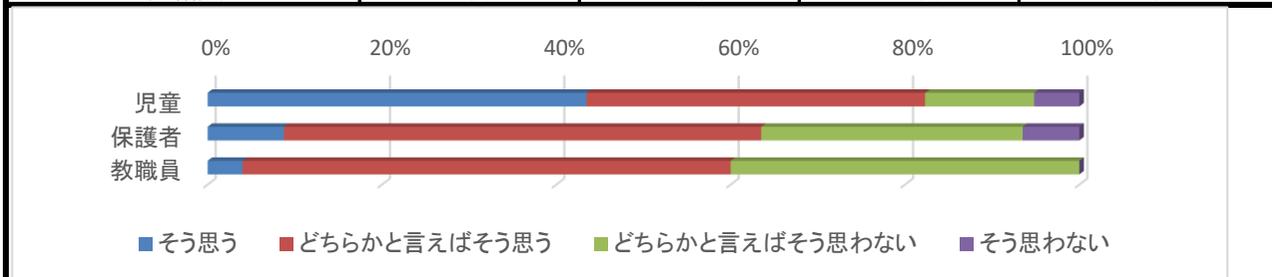
⑧【保護者】【教職員】子供は、授業で勉強したことが分かっている。
【児童】授業で学習したことがわかる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	55%	37%	5%	3%
保護者	26%	59%	13%	2%
教職員	4%	80%	16%	0%



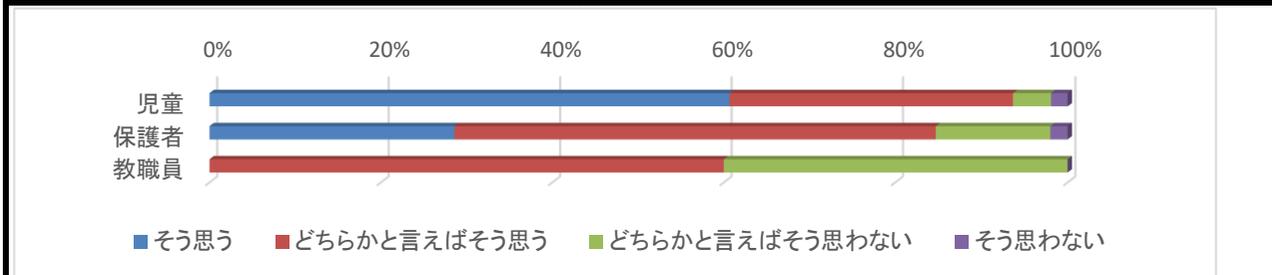
⑨【保護者】【教職員】子供は、自ら問題を見付け、工夫して粘り強く解決しようとしている。
【児童】授業では自分で見つけた「はてな」をじっくり考えている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	43%	39%	13%	5%
保護者	9%	55%	30%	7%
教職員	4%	56%	40%	0%



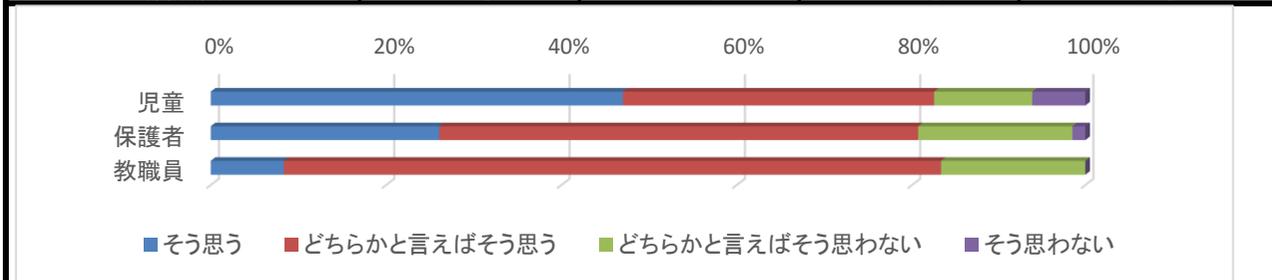
⑩【保護者】【教職員】子供は、相手の話に心を傾けて聴くことができる。
【児童】友達や先生の話に心を傾けて聴いている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	61%	33%	4%	2%
保護者	29%	56%	13%	2%
教職員	0%	60%	40%	0%



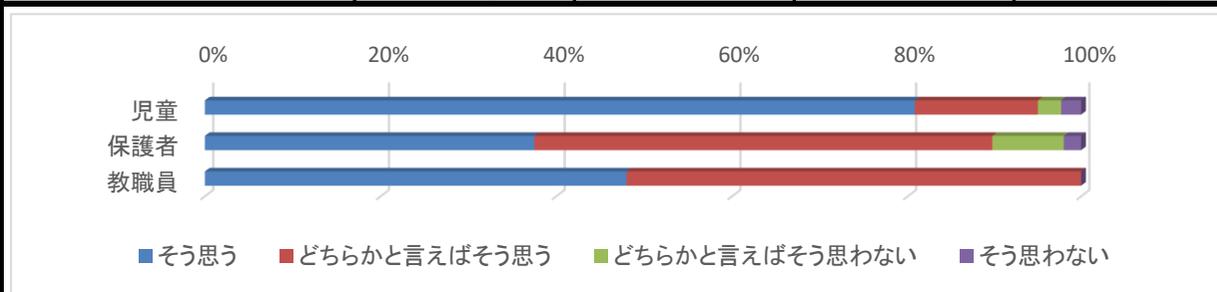
⑪【保護者】【教職員】子供は、自分の考えを伝えることができる。
【児童】自分の考えを友達や先生に伝えられる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	47%	36%	11%	6%
保護者	26%	55%	18%	2%
教職員	8%	75%	17%	0%



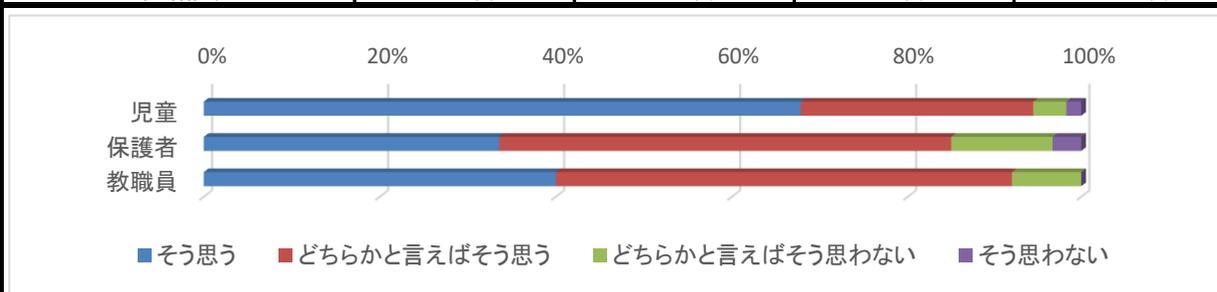
⑫【保護者】【教職員】子供は、友達との学習を楽しんでいる。
【児童】友達と一緒に勉強することは楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	81%	14%	3%	2%
保護者	38%	52%	8%	2%
教職員	48%	52%	0%	0%



⑬【教職員】【保護者】子供は、授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している。
【児童】授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	68%	27%	4%	2%
保護者	34%	51%	12%	3%
教職員	40%	52%	8%	0%



〈考察〉

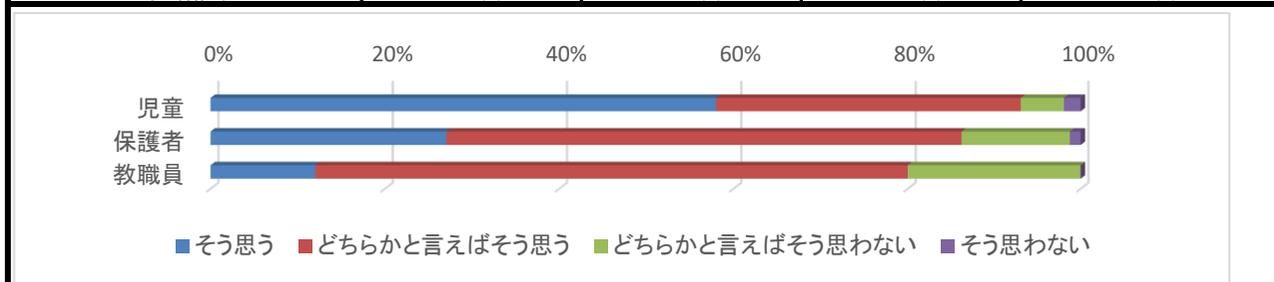
設問⑧「授業で学習したことが分かっている」に対する子供たちの肯定的な回答の割合は92%と、高い値となりました。今年度、鷹岡小では「分かった」「できた」を実感できる子を目指し、子供たちに対し丁寧な指導・支援を心掛けた授業を実践しています。具体的には学びの形態を子供一人一人に合ったものを選べるようにしたり、友達との対話の場面を重視したり、タブレットを中心としたICT活用の授業を進めたりしています。設問⑬「授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している」についても、肯定的な回答をした子供たちの割合が95%と、高い数値だった昨年度よりもさらに増えました。一人一台タブレットは導入されて4年目に入り、子供たちもすっかり扱いに慣れ、授業での活用が常態化しています。

設問⑨「授業では自分で見つけた「はてな」をじっくり考えている（課題を見付け、工夫して粘り強く解決しようとしている）」では、子供たちは肯定的な評価が82%と高い値になっていますが、保護者や教員の評価はそこまで高い数値ではありませんでした。学習においては、子供たちが学習課題を自分ごととして捉え、どのようにすれば解決できるかを自分なりに考え追究していくことが大切です。大人目から見ても、子供たちが真剣に課題に向き合い、目を輝かせて学びを深めていくことのできる姿がしっかりと確認できるような授業を目指していくことが今後の課題と言えます。

3 学校教育活動について

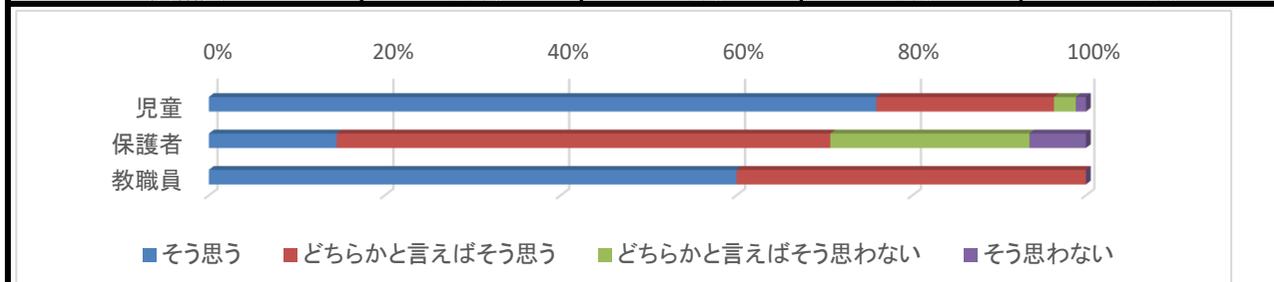
⑭【保護者】【教職員】子供は、「自分を、仲間を大切にする子」を意識して生活している。
 【児童】「自分を、仲間を大切にする子」を意識して生活している。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	58%	35%	5%	2%
保護者	27%	59%	13%	1%
教職員	12%	68%	20%	0%



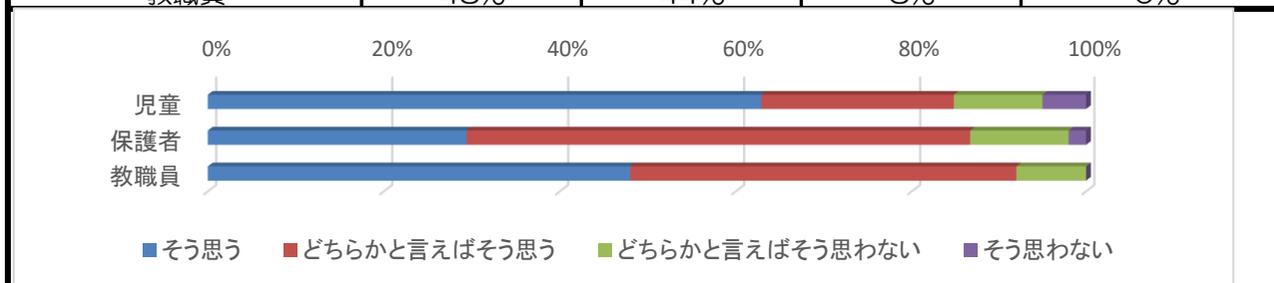
⑮【保護者】【教職員】学校は、子供の悩みや相談に親身になって応じている。
 【児童】先生は、困っていることや、悩んでいることをしっかりきいてくれる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	76%	20%	3%	1%
保護者	15%	56%	23%	7%
教職員	60%	40%	0%	0%



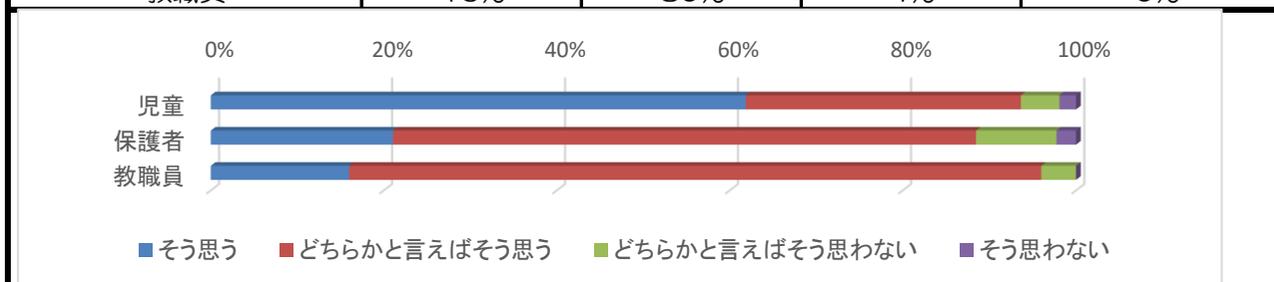
⑯【保護者】【教職員】お便りや担任からの連絡、学校行事への参加等により学校の様子がよく分かる。(情報提供できている。)
 【児童】学校のことを、家でよく話す。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	63%	22%	10%	5%
保護者	29%	57%	11%	2%
教職員	48%	44%	8%	0%



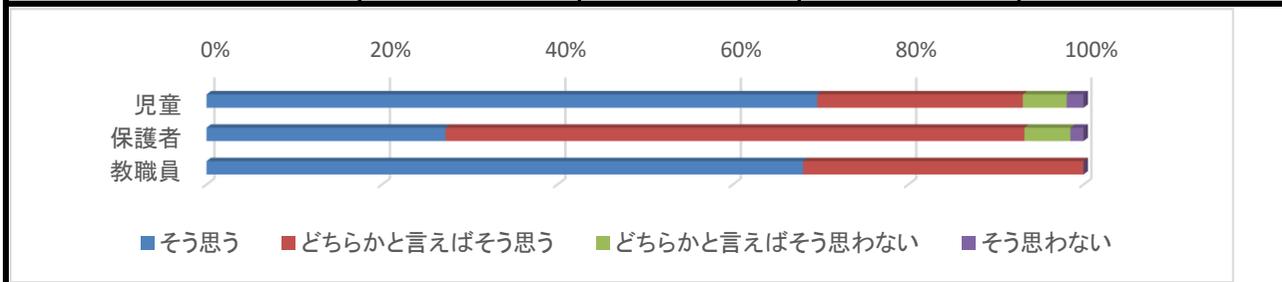
⑰【保護者】【教職員】学校行事は子供たちが夢中になれる特色のある行事となっている。
 【児童】いろいろな行事に向かって、目標をもって頑張っている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	62%	32%	4%	2%
保護者	21%	67%	9%	2%
教職員	16%	80%	4%	0%



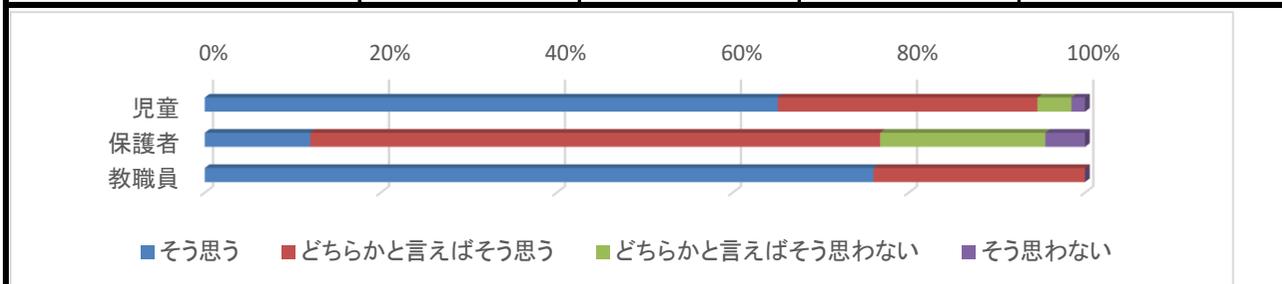
⑱【保護者】【教職員】学校の施設、設備は安全に過ごすことができる。
 【児童】学校は、安全・安心に過ごすことができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	70%	23%	5%	2%
保護者	27%	66%	5%	2%
教職員	68%	32%	0%	0%



⑲【保護者】【教職員】子供は、緊急時に自分の命を守るために適切な判断と正しい行動をとることができる。
 【子供】緊急事態が起きたときに、自分の命を守るため、どうすればよいか考えたり、行動したりすることができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	65%	29%	4%	2%
保護者	12%	65%	19%	5%
教職員	76%	24%	0%	0%



考 察

設問⑱「学校のことを家でよく話す（情報提供ができています）」については、児童が85%、保護者が86%の肯定的な回答をされています。現在、鷹岡小では、学校だより、学年だよりをはじめとし、日々の電話連絡や連絡帳でのやり取り等を通して、子供たちの学校での様子や今後の授業や行事などの情報提供を行っております。今後も、保護者の皆様に学校の様子がよく分かるよう情報を発信していきますので、何かお気付きの点等がありましたらご遠慮なく学校までお知らせください。

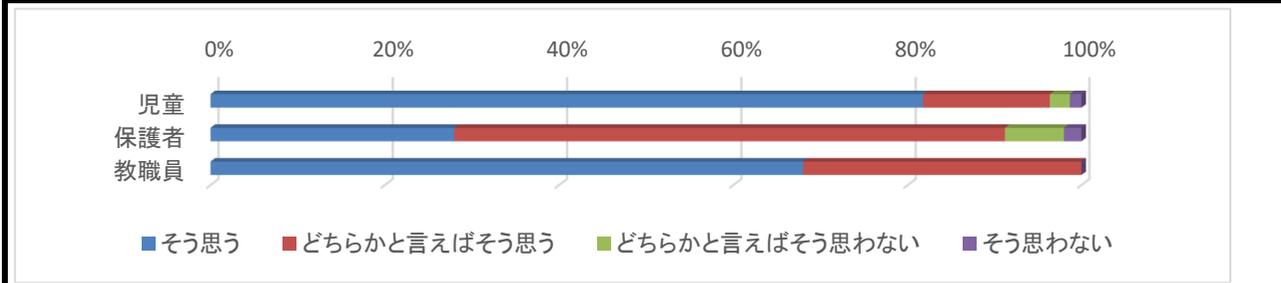
設問⑲「学校は安全・安心に過ごすことができる」については、児童・保護者ともに93%の方々が肯定的な回答をされました。今年の夏は平年を上回る暑さで、熱中症指数を基準に晴れていても外遊びを中止にする日が何日かありました。つまらない思いをした子供がいる一方で、子供たちの健康と安全を守る判断だと理解してくれている子供や保護者の方も多くいらっしゃいました。また、遊具やプール等をはじめとする学校施設の安全管理、子供たちの日々の健康状態の把握、子供の悩みごと等に対する教師による心を寄せた対応などもこれらの評価に含まれていることと思います。引き続き、子供たちが安全に過ごすことができ、保護者の皆様が安心して子供たちを送り出すことのできる鷹岡小学校を目指していきます。

設問⑲「緊急時に自分の命を守るために適切な判断と正しい行動をとることができる」については、子供たちの肯定的な回答が94%と高い値となりました。夏休み中には各地で大きな地震があり、南海トラフ巨大地震注意情報も出されました。9月に実施された避難訓練においても、大地震が起こった場合の対応の仕方についての話が各クラスで担任からあり、真剣に聞き入る子供たちの姿がありました。子供たちの意識を高め、緊急時に適切な対応ができるよう引き続き指導していきます。

4 コミュニティスクール、小中一貫について

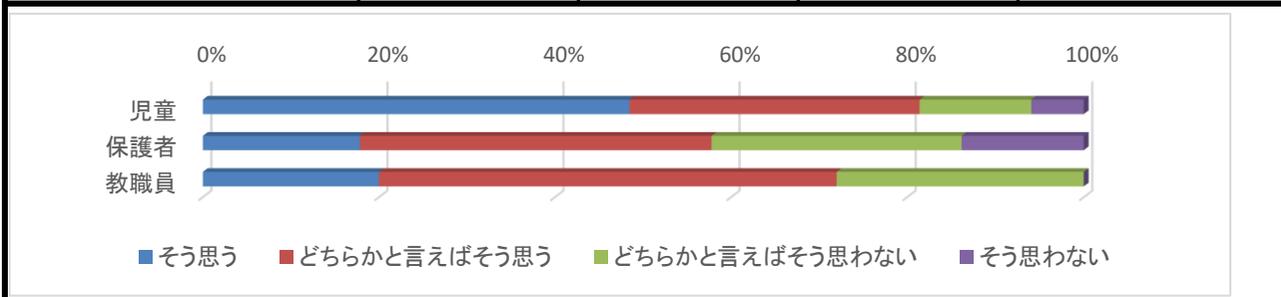
⑳ 地域の皆様や団体の方が子供たちや学校の教育活動に関わることは
 【保護者】 【教職員】 子供たちにとってよい効果が表れている。
 【児 童】 あなたにとってよいことですか。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	82%	15%	2%	1%
保護者	28%	63%	7%	2%
教職員	68%	32%	0%	0%



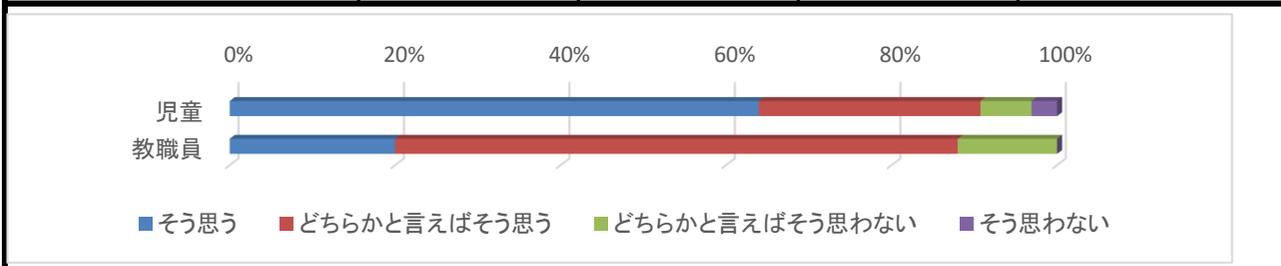
㉑ 【教職員】 子供たちは、三校（鷹小、天間小、鷹中）合同で行っているエンジョイストップメディアキャンペーンを意識して取り組んでいる。
 【児 童】 三校（鷹小、天間小、鷹中）合同で行っているエンジョイストップメディアキャンペーンを意識して取り組んでいる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	48%	33%	13%	6%
保護者	18%	40%	28%	14%
教職員	20%	52%	28%	0%



㉒ 鷹小スリースター（明るいあいさつ・きれいな学校・絆を深める）についての質問です。
 【教職員】 子供は、明るいあいさつができています。
 【児 童】 明るいあいさつができています。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	64%	27%	6%	3%
教職員	20%	68%	12%	0%

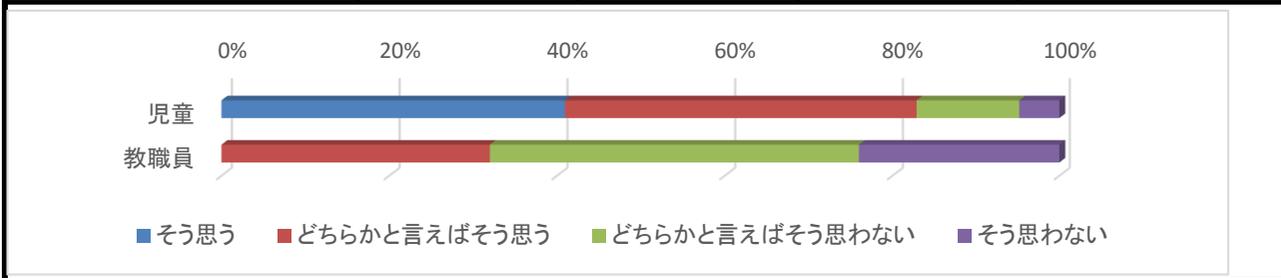


⑳ 鷹小スリースター（明るいあいさつ・きれいな学校・絆を深める）についての質問です。

【教職員】子供は、きれいな学校にむけて、黙動清掃ができています。

【児童】きれいな学校にむけて、黙って掃除ができています。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	41%	42%	12%	5%
教職員	0%	32%	44%	24%

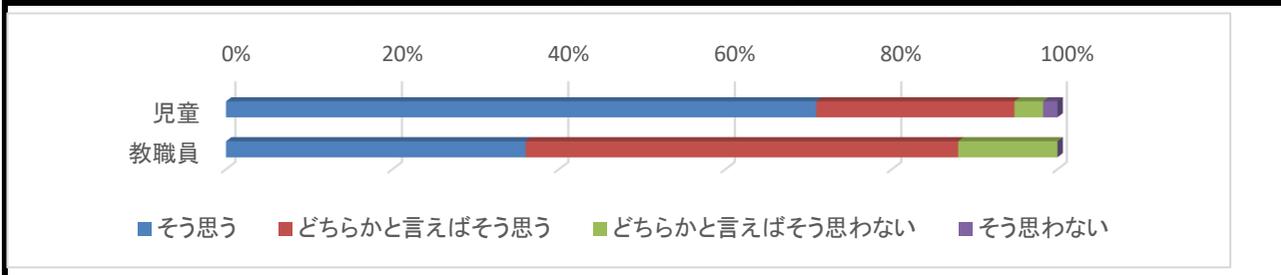


㉑ 鷹小スリースター（明るいあいさつ・きれいな学校・絆を深める）についての質問です。

【教職員】子供は、相手の気持ちを考えた言動をとったり、縦割り活動を通して仲間と楽しく過ごしたりと絆を深めることができています。

【児童】友達の気持ちを考えたり、縦割り活動等を通してみんなと楽しく過ごしたりと絆を深めることができています。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
児童	71%	24%	3%	2%
教職員	36%	52%	12%	0%



考 察

設問㉑の児童による評価の高さからからも、子供たちが地域の皆様に支えられて安心安全に充実した学校生活を送れていることが分かります。本年度はCS（コミュニティスクール）6年目となります。子供たちの登下校の見守りや遠足の引率、園芸や学習のお手伝いなど、様々な場面で地域の方のお力をお借りしながら教育活動を進めており、CSが鷹岡小学校に定着してきています。今年度は、夏に鷹岡中・天間小も含めた鷹岡中学校区3校での合同学校運営協議会も実施されました。今後も、CSディレクターを中心に、CSボランティアの輪が広がり学校と地域の皆様とのつながりが広がっていくことで、地域に開かれた学校を目指してまいります。

設問㉒は、今年度から名称が変わったエンジョイストップメディアキャンペーンの取組についてです。例年見られる傾向ですが、今年度も児童の評価と保護者・教職員の評価には乖離が見られました。大人たちの心配しているほど子供たちのノーメディアについての意識は高まってきていないのかもしれませんが、この取組についても、鷹岡中学校区3校（鷹岡中・鷹岡小・天間小）で、子供たちの心身の健康や正しい生活習慣の定着を目指して実施しているものです。学校でも引き続き、声掛けを行いますがお家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

設問㉓㉔は鷹岡小スリースターについてです。子供たちにとってスリースター（明るいあいさつ・きれいな学校・絆を深める）の目標が身近なものになってきていることが評価から分かります。その中で、「明るいあいさつ」については、今年度よりあいさつ運動の指定校となったこともあり、児童会を中心に様々な取組を行っていることもあって、昨年度までに比べて活発なあいさつが校内に響いています。一方、「きれいな学校」に関する項目が若干低くなっています。小学生が黙動で丁寧に掃除を行う目標は少し高いものなのかもしれませんが、高学年では実践できているクラスも多く見られるようになってきています。何のために話をせずに集中して掃除に取り組むのか、再度子供たちと確認して引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

5 保護者の皆様からのご意見、ご質問、ご要望について

下校時刻を過ぎても終わらず校舎から出て来ない事が度々あります。できれば時間通りに終わりにしていただきたい。

下校時刻は、冬場でも暗くならない時間帯に設定する等、子供たちが安全に下校できる時間に設定しております。高学年は週に何回か6時間授業がありますので、遅めの下校時刻になる日があますが、決められた時間に帰れば安全に下校することができます。学級担任は、下校時刻を過ぎずに子供たちを下校させるように気を付けておりますが、まれにクラスの様々な事情によって数分下校時刻を過ぎてしまうこともあるかもしれません。決められた時刻にお子さんが家庭に戻らないと、保護者の方も不安になることと思いますので、その日その日の下校時刻までにしっかりと下校できるよう職員全体で共通理解を図り、今後取り組んでいきます。また、特別な事情があって（体調不良や生徒指導対応など）、一部の子供たちに少しの時間残ってもらうことがあります。その時には家庭にどのような事情で学校にお子さんが残っているのかについて連絡を入れ、場合によっては保護者の方迎えに来てもらったり、教師が途中まで付き添って下校したりするというも行っております。

授業に集中できていない子や、真面目に取り組んだり過ごしている子に対して邪魔をする子がいるようなので、改善してほしいです。

授業に集中できていない子が学校の中に一定数いることはその通りだと感じています。ただ、その子供がどうして授業に集中できていないのかについては、子供によって原因は様々です。教師は、授業にしっかりと取り組めていない子供に対し頭ごなしに指導するのではなく、どうして今そのような状態なのか、何か不安なことがあるのか等について本人に聞いたり、保護者と連絡を取ったりして、その状況が改善できるよう働き掛けています。しかし、指導や支援を行ってすぐに授業に100%集中できるようになるということはなかなか難しいことかと感じています。授業に関心がもてるよう、少しずつ気持ちが学びに向かうように声掛けを続けていきます。ただし、真面目に取り組んでいる他の子供の学習の邪魔をするような場合は、その子本人にどのような理由があっても見過ごすことはできません。この場合においても、どうしてそのような行動に出てしまったかを丁寧に子供から事情を聞いた上で、友達の学習の邪魔をする行動は決して許されることはできないことだとすることを毅然と指導していきます。もし、そのような場面が見られる時には、連絡帳等ですぐに学級担任にお知らせください。

登下校のとき、車道に降りて歩いていたたり、道に広がって歩いていたたり、走っている車をふざけて走って追いかけてみたりと、危なっかしい場面をよく見ます。また、自転車に乗っている子で、ヘルメットをしていなかったり、道の右側を走行したり、交通ルールを守れていない子がいます。事故が起きてからでは遅いので、交通指導を強化した方がいいと思います。

このような子供たちの登下校に関することについては、保護者の方や地域の皆様から時々報告を受けます。その度、該当の子供たちを集めて指導したり、生徒指導担当の職員が放送で全校に交通ルールを守ることの大切さについて話をしたりしています。ただ、そのような指導が子供たち全員に身に染みて届いていない現実もあります。友達との登下校の時間には、話が盛り上がり、楽しい気分になって、自分の身の回りの安全について注意が向かなくなってしまうことも多々あるようです。子供たちの悲しい事故を起こさせないためにも、地域の皆様や登下校見守りボランティアの皆様とも協力して、今後とも安全指導を進めてまいります。御家庭でも、御指導をよろしくお願い致します。

※その他、保護者の皆様からたくさんの御意見や御要望をいただきました。各部会や職員会議などで検討をしています。後期から取り組むべきことは早速取り組み、今後の教育活動への指針となる御意見については、検討の上、来年度の教育課程へ生かしていきたいと考えています。ありがとうございました。